三鷹市立大沢台小学校　令和8年度【図画工作】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年		**〈学習状況の現状と課題〉** ・楽しんで作品作りができるが、自分が作品に込めた思いを説明することには個人差がある。また自分で考えて作品作りに取り組んでいるつもりでも、近くの友達の作品に影響を受けてしまい、似通った作品になってしまうこともある。 ・絵の具を使っての学習は２学期にから行っていく。児童の実態に合った内容を計画していく必要がある。 ・手や体全体の感覚などを働かせ製作活動に取り組んでいるが、材料や用具の扱い方については個人差があり、一つ一つのものの使い方を指導する必要がある。	**〈指導方法の課題〉** ・身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れさせる時間を確保できていない。 ・作品を鑑賞する視点を明確に提示できていない。 **〈授業改善策〉** ・学習の導入では、完成図や製作過程図を示し、具体的に分かるように例を提示する。また、自由な発想や表現ができるように、考える時間を確保する。 ◎作品のできばえや取組を具体的に友達に伝えられるように、事前に鑑賞の視点を提示し、鑑賞の時間を十分に設けるようにする。また、相互評価や自分の作品に込めた想いを伝え合い、個々の自信につながるようにする。
第2学年	**〈成果〉** ・導入では、仕上がりの見本を見せることで想像させることができた。自分の描く完成図を一度イラストに描き、世界観をはっきりさせることで、どの児童も取り組みやすくなった。 ・活動途中で友だちの作品を鑑賞する時間を設け、表現活動に広がりをもたせ、苦手意識がある児童の活動を進める手助けとなるようにした。 **〈課題〉** ・絵の具やその他用具の使い方に慣れてきているものの、定着には差がありまだ不十分である。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・クレヨンの新しい技法や、液体粘土など新しい材料を使い、すすんで取り組むことができている。 ・技術面（はさみやのり、絵の具などの用具の扱い）は、経験値の差が大きく、作業時間に大きく差が出てしまう。技術面の差を考えて学習を進める必要がある。	**〈指導方法の課題〉** ・身近な材料や用具に十分に慣れさせる必要がある。 ・各児童の思いを全体で共有して発想を広げる場が不十分であった。 ・楽しく鑑賞に取り組んでいるが、形や色についての視点を明確に提示できていないことがある。 **〈授業改善策〉** ◎材料や用具の扱い方では個別指導や繰り返し指導すること、ペアやグループでの確認など題材に合わせた形態を工夫する。 ・活動の差が出ることを想定した活動時間を設定する。遅れている児童には、進んでいる児童の様子を見せ、工夫していることに気付かせ、取り入れられる機会をつくる。導入時や活動途中で思いを発表したり紹介したりする時間をつくる。 ・鑑賞では、互いの作品を見る際の視点やルール、流れを決めて習慣化する。
第3学年	**〈成果〉** ・様々な材料や用具に触れる時間をたくさんとったことで、積極的に取り組み、扱いに慣れることができていた。 ・鑑賞では、視点を伝えること、全体やグループ、ペアなど様々な形態で行うことで、自他のよさをより感じ取ることができた。 **〈課題〉** ・どの題材においても、意欲的に取り組んでいるが、絵の具などの扱いが次の題材につながらず基本的な技能の定着には至っていない。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・初めて使用する用具は意識して正しく使おうとする意識が高く、友達同士で教え合う姿が見られた。 ・初めにイメージしたことを表すことで満足してしまい、さらにイメージを広げることや工夫して表すことに対しての意識が低い。 ・用具の扱い等に関しては引き続き基本を繰り返し指導し、経験を積んで確実な定着を図っていく必要がある。	**〈指導方法の課題〉** ・題材ごとに用具の正しい扱い方を復習し確認する時間が確保できていない。 ・題材の提示の仕方やイメージを広げる言葉がけに、より工夫が必要である。 ・鑑賞活動に対し消極的な児童への個別の声かけや指導に課題がある。 **〈授業改善策〉** ・用具の基本的な扱い方をいつでも確認できるように掲示しておくなど、視覚的な工夫をする。 ◎好きな色を選んだり、作り直したり、行きつ戻りつしながら表す過程を重視し、発想の広がりに対応できるように、材料や用具を出すタイミングや選択肢を増やすなど題材の工夫をする。 ・活動途中にも自然に鑑賞ができるように、材料や用具の配置を考えて動線を工夫する。
第4学年	**〈成果〉** ・思い付いたことを全体で共有したことで、作品のイメージをもち、取り組むことができた。 ・活動途中に互いの作品を見合うことで、作成の意欲の向上や表現方法の広がりにつながった。 ・手順などの板書を工夫することで、自分のタイミングで作業手順をその都度確認できるようにした。 **〈課題〉** ・活動に取り組んでいると自分の主題や授業のねらいを忘れてしまう児童も見られる。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・初めて使用する用具の扱い方を理解し、適切に扱おうとする姿が見られる。 ・モダンテクニックの技法に関心が高く、意欲的に取り組むことができたが、学習のねらいを適切に理解できない児童が見られる。色や形からイメージもちながら、表し方を工夫できるように、見方を変えるなどの提案をしていく必要がある。 ・自らの作品に対する課題を見付け試行錯誤してよりよくしようとする意識は低い。	**〈指導方法の課題〉** ・題材ごとに用具の正しい扱い方を復習し確認する時間が確保できていない。 ・活動中に取り組みを振り返ったり、ねらいを確認したりするなどの手だてが十分でなかった。 ・鑑賞で発言する児童が偏っていたり、記述内容の視点が理解できていなかったりと鑑賞の指導に課題がある。 **〈授業改善策〉** ◎知識・技能の定着を図るために、用具の基本的な扱い方をいつでも確認できるように掲示しておくなど、視覚的な工夫をする。 ・こまめに振り返りをして授業のねらいを確認しながら、イメージをさらに広げたり、新たな見方を提案したりする。 ・作品完成時の鑑賞だけでなく活動中の交流などで感じたことを紹介したり、共有したりすることで、さらに意欲の向上と持続につながるようにする。
第5学年	**〈成果〉** ・用具の使い方をペアやグループで確認することで、適切に扱えるようになった。 ・流れを掲示し、毎時間やるべきことを明確にしたことで見通しをもって取り組むことができた。 **〈課題〉** ・自分の思いに合わせて表すことには積極的に取り組んでいるが、作品全体を見て表し方を工夫するなどの粘り強く取り組む姿勢は不十分である。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・自分の表したい思いに合わせて、用具を活用したり、表し方を工夫しようとする姿勢が見られる。その表し方が自分の主題に効果的であったかは振り返りで確認して行く必要がある。 ・表現したいことはあっても、どう形にしたらよいか戸惑う児童や表したいものが思い浮かばず手が動かない児童など、発想力に課題を感じる児童がいる。 ・児童によって作成の進度の差があり、計画的に進められるように振り返りの充実や個別指導が必要である。	**〈指導方法の課題〉** ・用具の使い分けよる表現の違いを明確に提示できていない。 ・自分の表したいことを考える時間の確保と、思い付いたことを全体で共有し肯定していく必要がある。 ・進度差があるため、遅れがちな児童へ個別指導していく必要がある。 **〈授業改善策〉** ・材料や用具による表現の違いを見える場所に掲示し、自身の思いに合った用具を自ら選択し使用できるようにする。 ◎題材導入時に試行する事案を十分に確保することと、ペアや全体で自分の思いを交流することで自信をもったり発想を広げたりできるようにする。 ・工程ごとに活動内容を提示し、段階的に取り組ませること、活動をこまめに振り返ることで自身で計画的に進められるようにする。
第6学年	**〈成果〉** ・製作途中の作品を並べて、互いの作品を見合う中で、表現のよさや工夫に気付き、自身の作品の表現に生かすことができた。 ・活動の工程表を作成し提示することで、見通しをもって取り組むことができた。 ・与えられた材料で考えることはできるが、自発的に表現方法を考えたり、表し方を工夫するなどの粘り強く取り組む姿勢は不十分である。	**〈学習状況の現状と課題〉** ・材料や用具の扱いは繰り返し何度も使用したり、何度か個別指導したりすると、できるようになる児童が多い。 ・作品完成までの見通しをもってはいるが、児童によって作成の進度の差があり、計画的に進められるように振り返りの充実や個別指導が必要である。 ・与えられた材料で考えることはできるが、自発的に表現方法を考えたり、表し方を工夫するなどの粘り強く取り組む姿勢は不十分である。	**〈指導方法の課題〉** ・自身で使い方を確認したり、グループなどで使い方を見合ったりする活動をしていく必要がある。 ・活動の途中で個々の表現の工夫に対して全体に紹介したり、発表させたりしながら振り返り、進度の確認を行っていく必要がある。 ・表現方法を自分で考えたり、材料を選択したりしたくなるような題材の工夫が必要である。 **〈授業改善策〉** ・材料や用具を今までの経験を生かし自分の思いを効果的に使用できるよう題材の設定をする。 ・ワークシートを活用してこまめに振り返りをしたり、表現や取り組みの発表や交流をしたりして計画的に取り組ませるようにする。 ◎使える材料や用具を自身で考えさせたり、材料や用具を出すタイミングを変えたり工夫していく。